

平成29年度熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」 小学校第5学年 算数 解答一覧 No.1

大問	中問	小問	連番	観点	概ね満足できる解答状況	十分満足できる解答状況												
					成績処理システムでは 1 と記入すること	成績処理システムでは 2 と記入すること												
1	(1)		①	技能		16.1												
	(2)		②	技能		5												
	(3)		③	技能		$\frac{1}{2}$												
2	(1)		④	考え		イ												
	(2)		⑤	知識		ア, イ (完答)												
	(3)		⑥	知識		ウ												
	(4)		⑦	知識		$\boxed{1.5} \times \boxed{2} + \boxed{0.2} = \boxed{3.2}$ または, $\boxed{2} \times \boxed{1.5} + \boxed{0.2} = \boxed{3.2}$ と答えている。(完答)												
<p><b>【授業改善の視点】</b>                      計算の結果を見積もること、除数の性質に基づいて小数の計算を整数の計算に置き換えること、計算の結果を確かめることは大切な計算の能力である。ここで取り上げる商の大きさは、児童にとってとらえにくい考え方であり、日々の授業場面においても常に話題にしなが、児童が計算する際にいつも意識することができるようにしたい。</p>																		
3	(1)		⑧	知識		エ												
	(2)		⑨	考え		やさいジュース イ スポーツドリンク エ (完答)												
4	(1)		⑩	関心	12, 14, 16のうち、2つを正しく書いている。	<table border="1"> <tr> <td>黒のおはじきの数(個)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>白のおはじきの数(個)</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>16</td> </tr> </table> (完答)	黒のおはじきの数(個)	1	2	3	4	5	白のおはじきの数(個)	8	10	12	14	16
	黒のおはじきの数(個)	1	2	3	4	5												
白のおはじきの数(個)	8	10	12	14	16													
(2)		⑪	考え	(正答の条件) ① 黒のおはじきが30個のときの、上下の白のおはじきの数を求めている。 ② 両側の白のおはじきの数6を式に表している。 ③ 白のおはじきの数を、66個と求めている。  (正答例1) (式) $6 + 2 \times 30 = 66$ (答え) 66個 ※式は、 $3 + 30 \times 2 + 3$ 等でもよい。  (正答例2: 加法のみで式を書いた場合) (式) $6 + \underline{2} + \underline{2} + \dots + \underline{2} = 66$ (答え) 66個 2を30個書いている。	①, ②のみ正しく書いている。 (計算の結果に誤りがある。)	①, ②, ③を全て正しく書いている。												
5	(1)		⑫	考え		ア 7 イ 5 (完答)												
	(2)		⑬	技能	(式) $30 \times 40 \times 20 = 24000$ まで、正しく書いている。	(式) $30 \times 40 \times 20 = 24000$ $24000\text{cm}^3 = 24\text{L}$ (答え) 24L ※ $24000\text{cm}^3 = 24\text{L}$ を書いてなくてもよい。												

平成29年度熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」 小学校第5学年 算数 解答一覧 No. 2

大問	中問	小問	連番	観点	概ね満足できる解答状況	十分満足できる解答状況
					成績処理システムでは 1 と記入すること	成績処理システムでは 2 と記入すること
6	(1)		⑭	知識		<input checked="" type="checkbox"/> ア <input checked="" type="checkbox"/> エ (完答)
	(2)		⑮	考え	<p>(正答の条件)</p> <p>① A, B の 2 つの部屋の混みぐあいを求める式を書いている。</p> <p>② 式の計算ができています。</p> <p>③ 単位量あたりの大きさを用いて比べたことを基に, A の部屋が混んでいることを説明している。</p> <p>(正答例 1)</p> <p>A <math>12 \div 9 = 1.333\cdots</math></p> <p>B <math>8 \div 5 = 1.6</math></p> <p>1 人あたりのたたみのまい数が, A の部屋の方が少ないので, A の部屋の方がこんでいる。</p> <p>(正答例 2)</p> <p>A <math>9 \div 12 = 0.75</math></p> <p>B <math>5 \div 8 = 0.625</math></p> <p>たたみ 1 まいあたりの人数が, A の部屋の方が多いので, A の部屋の方がこんでいる。</p> <p>(その他: 一方の量をそろえて考えていても可とする。)</p> <p>例: たたみを 24 まいと考えると</p> <p>A 24 まいあたり 18 人</p> <p>B 24 まいあたり 15 人</p> <p>たたみ 24 まいあたりの人数が, A の部屋の方が多いので, A の部屋の方がこんでいる。</p>	<p>①, ②, ③ を全て正しく書いている。</p>
<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>混み具合について調べる際, 単位量あたりの大きさを比べるが, 単位量については本設問のように「1 枚あたりの人数」「1 人当たりの広さ」のような考え方ができる。生活場面を見たとき, どちらの考え方もできることが大切であるが, 児童にとって, それぞれの計算結果の大小と混み具合の関係については混乱が予想される。そこで, 授業においては単位量のとらえ方は 2 通りあることを理解させるとともに, 図や生活場面と関連付けて丁寧に扱い理解を確実なものにしていきたい。</p>						
7	(1)		⑯	知識		ちょう点 D
	(2)		⑰	関心	ア, ウのどちらか一方のみを書いている。	ア, ウ (完答)
	(3)		⑱	考え	イ, エ, オのうち, 2 つを答えている。 ※ア, ウのいずれかを記入している場合を除く。	イ, エ, オ (完答)
8	(1)		⑲	技能		ア 4    イ 2    ウ 8 エ 10    オ 12
	(2)		⑳	考え		ウ
<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>算数の学習では, 目的に応じて資料を集めて分類整理したり, それを表を使ってわかりやすく表現したり, 読み取ったりすることが大切である。児童の日常生活の中では, 入手した資料や作成した表が, 必ずしも目的に応じて分類整理がなされたものであるとは限らない。本設問のように, 最初の表では表せない数も出てくる。そこで, 表に表されている数の意味をとらえ, 目的に応じた表に作り直すことが必要になる。このような学習を通して, 二次元表の特徴や性質等の理解を確実なものにしていきたい。</p>						